

pure::variants – VDM の比較・マージ機能

本資料では、複数の VDM（バリエント・ディスクリプション・モデル）を比較させて、それら製品バリエントが持つ同じ、もしくは異なるフィーチャの抽出や、それらをマージする機能について紹介します。

下記、2つの方法があります。

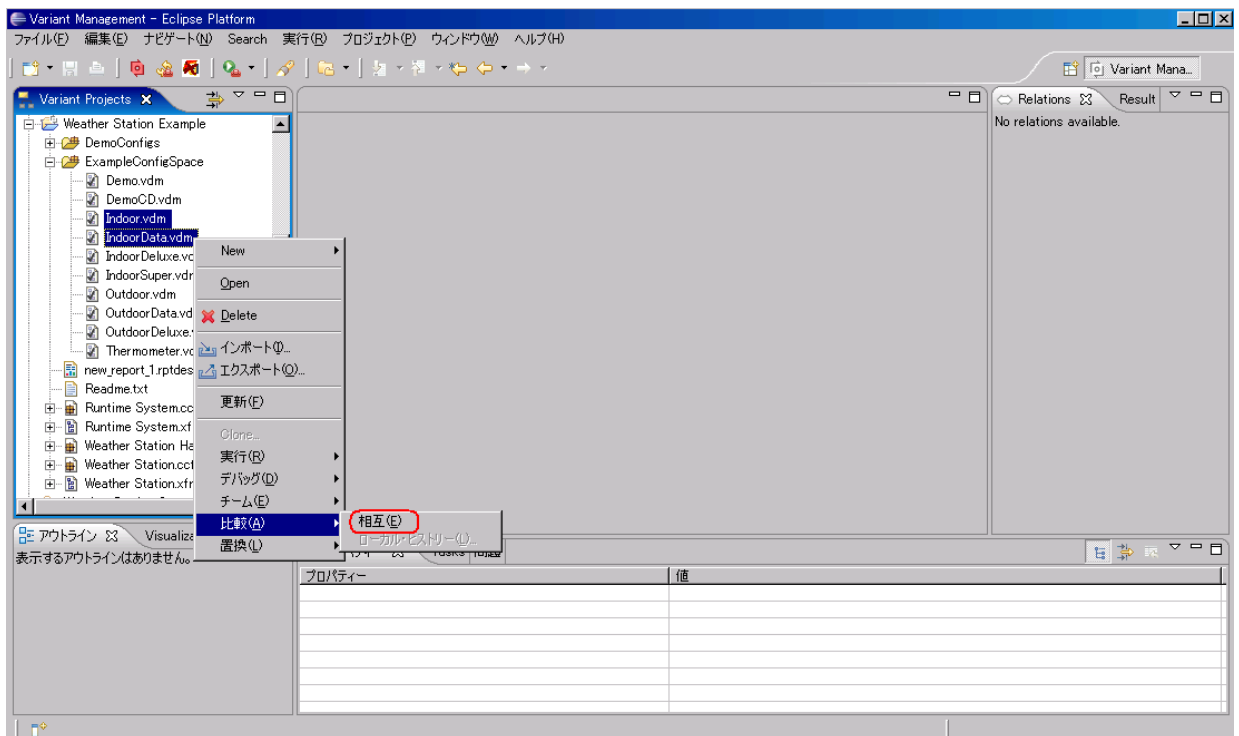
- Compare 機能を使用して比較
- Matrix View を使用して比較

以下 pure::variants のサンプルプロジェクト “Weather Station Example” を例に、これら2つの方法を紹介します。

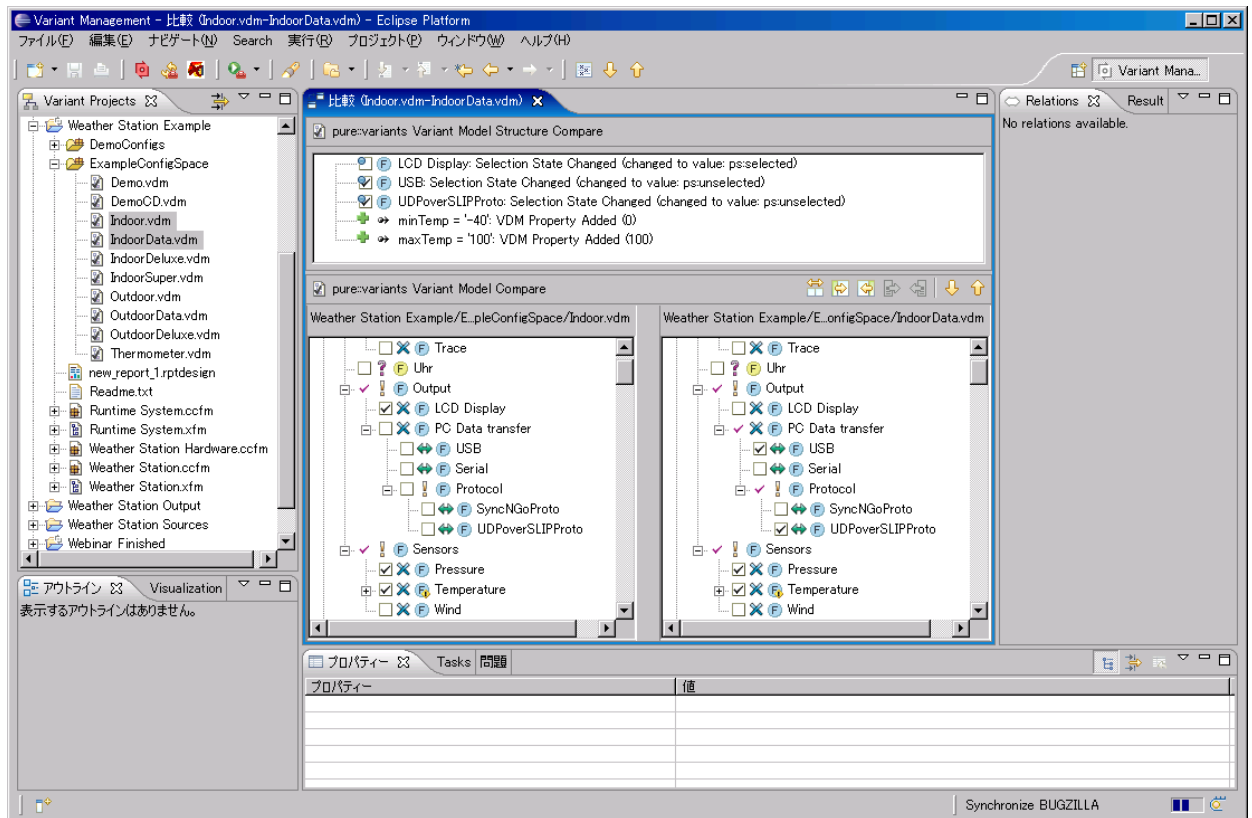
1. Compare 機能を使用して比較

プロジェクト内から、2つの VDM (“Indoor.vdm” と “IndoorData.vdm”) を選択して右クリックし、コンテキストメニューから “比較 -> 相互” を選択します。

※ VDM の選択は、Ctrl キーを押しながらマウスで選択。



そうすると、以下 VDM の比較画面 (“比較 (Indoor.vdm-IndoorData.vdm)”) が開きます。



上段は、“Indoor.vdm”と“IndoorData.vdm”のフィーチャ選択の違いをリスト表示しています。下段の左側は“Indoor.vdm”を、右側は“IndoorData.vdm”を表示しています。

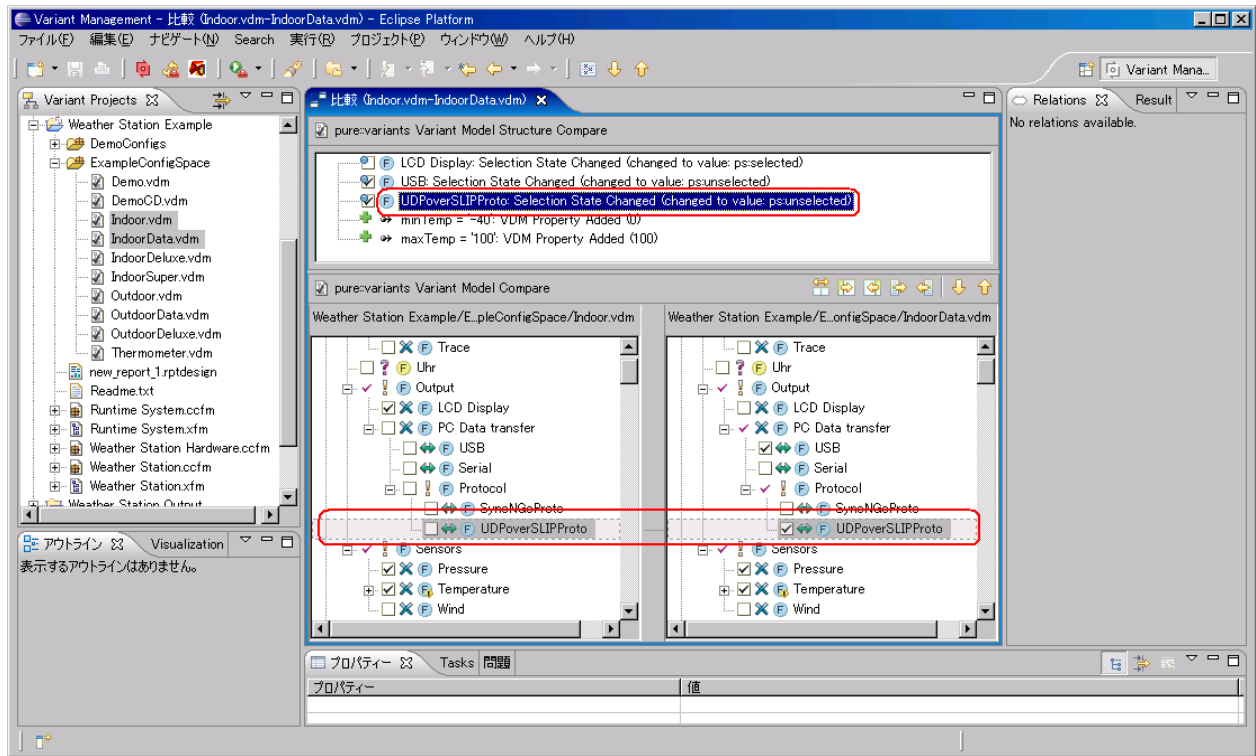
上段にあるフィーチャ“UDPoverSLIPProto”や“USB”は、“IndoorData.vdm”で選択されておらず、フィーチャ“LCD”は、“Indoor.vdm”で選択されていません。

このようにVDMを比較し、フィーチャの違いを抽出することができます。

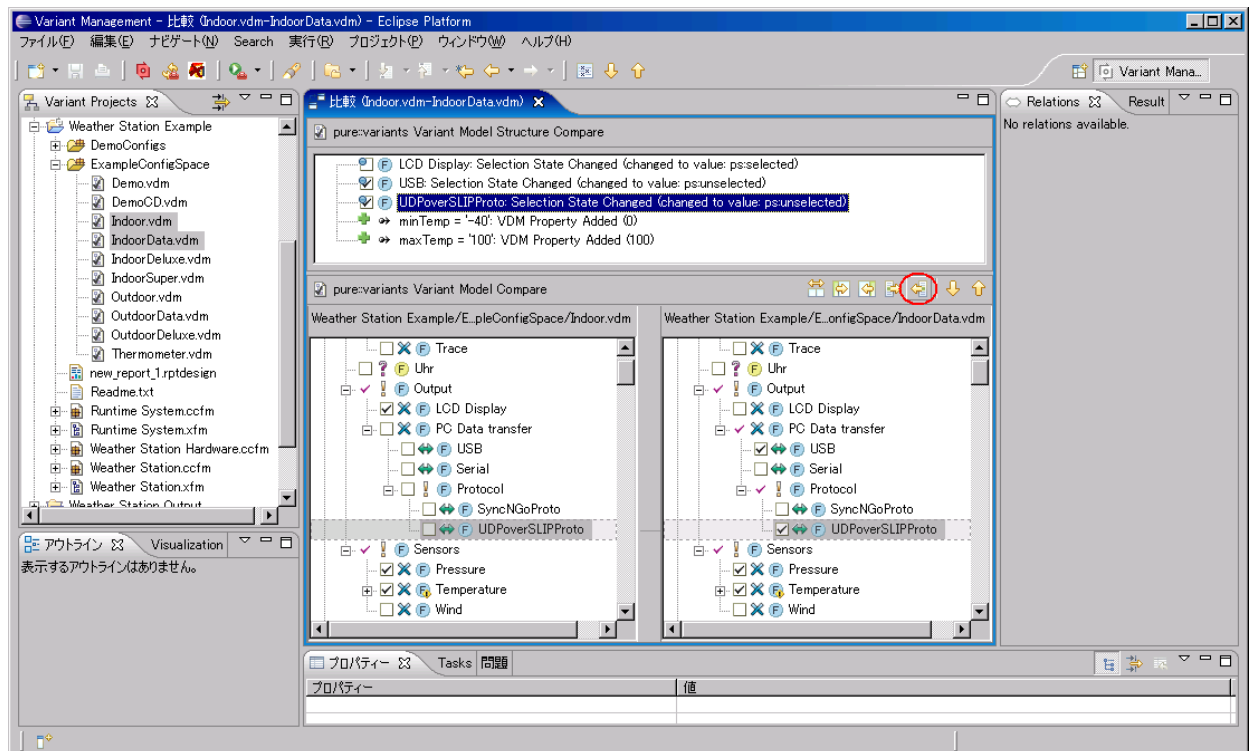
また、この画面で異なるフィーチャ選択をマージ（フィーチャのチェックボックスにチェックを入れる）することもできます。例えば、上段にあるフィーチャ“UDPoverSLIPProto”は、“Indoor.vdm”では選択されていないが、“IndoorData.vdm”では選択されています。

そこでこの画面を使って、“Indoor.vdm”にフィーチャ“UDPoverSLIPProto”を選択するように以下でマージしてみます。

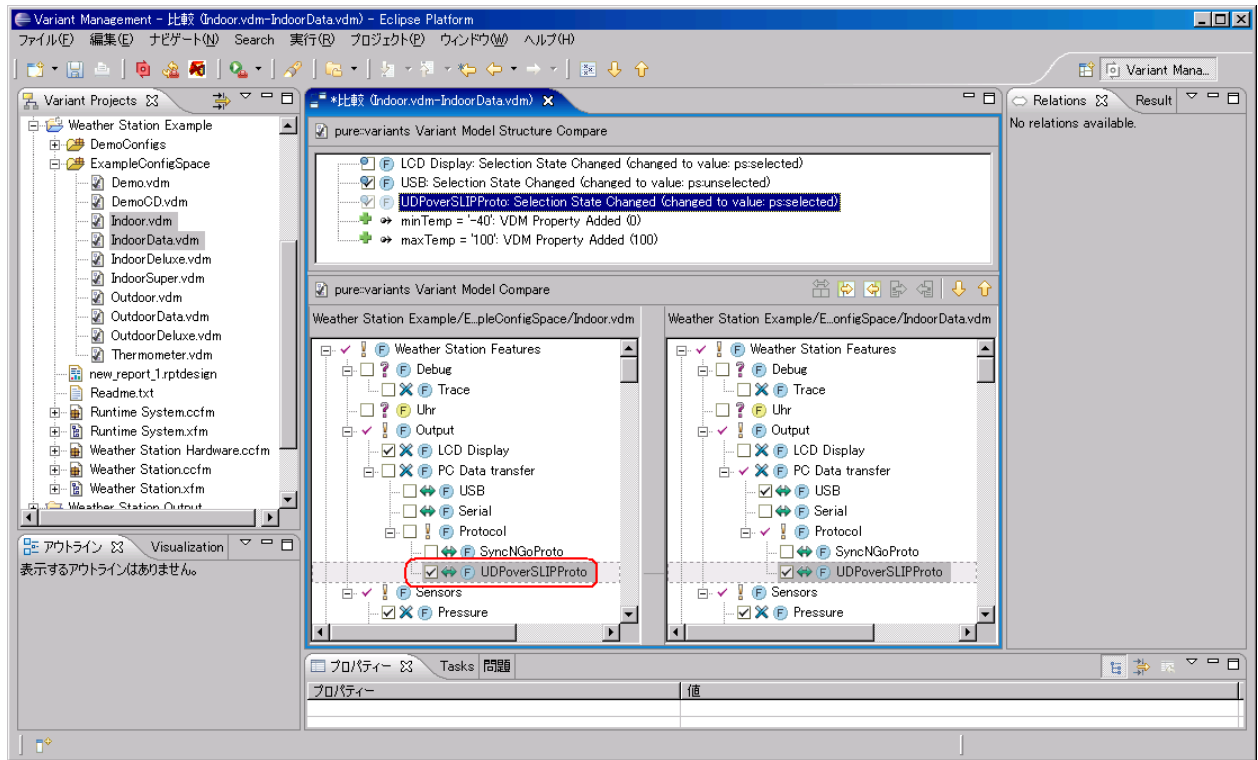
上段にあるフィーチャ“UDPoverSLIPProto”をクリックすると、以下のように下段でハイライトされます。



左側の“Indoor.vdm”にフィーチャ“UDPoverSLIPProto”を選択するようにマージするには、下図赤丸のボタン（Copy Current Change from Right to Left）をクリックします。



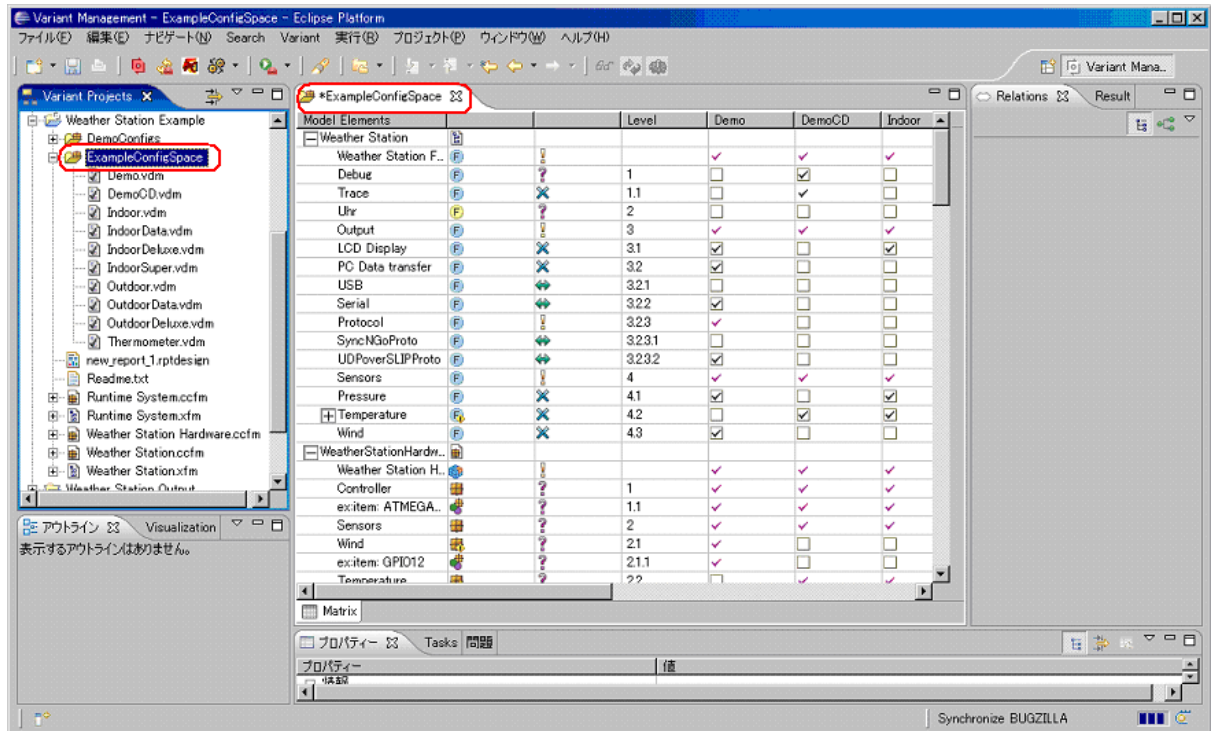
そうすることで、左側の“Indoor.vdm”のフィーチャ“UDPoverSLIPProto”にチェックが入りました。



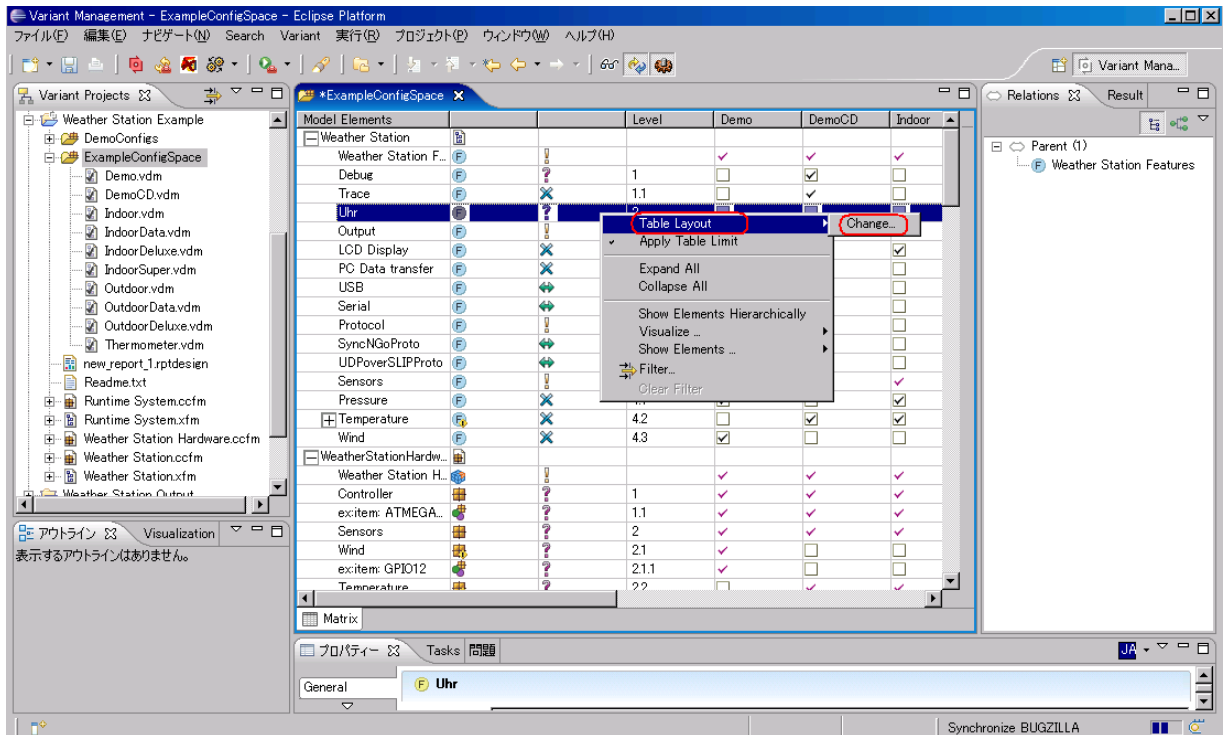
※この画面タブ（“比較（Indoor.vdm-IndoorData.vdm）”）を閉じる時に、変更を保存するか聞いてきます。

2. Matrix View を使用して比較

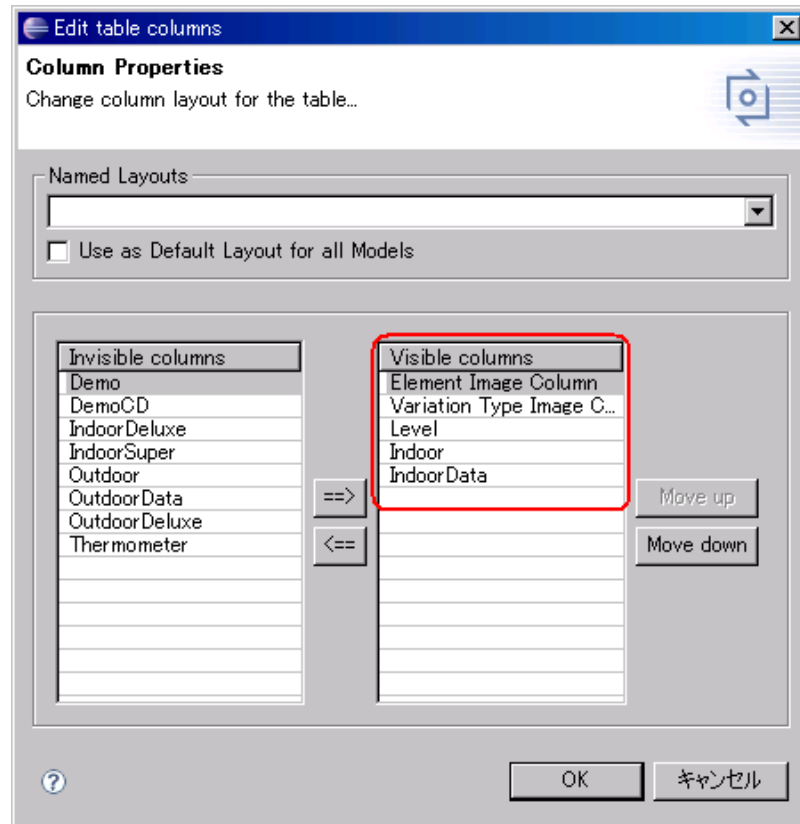
以下コンフィグレーション・スペース (ExampleConfigSpace) をダブルクリックし、全製品バリエーションを Matrix View で表示させます。



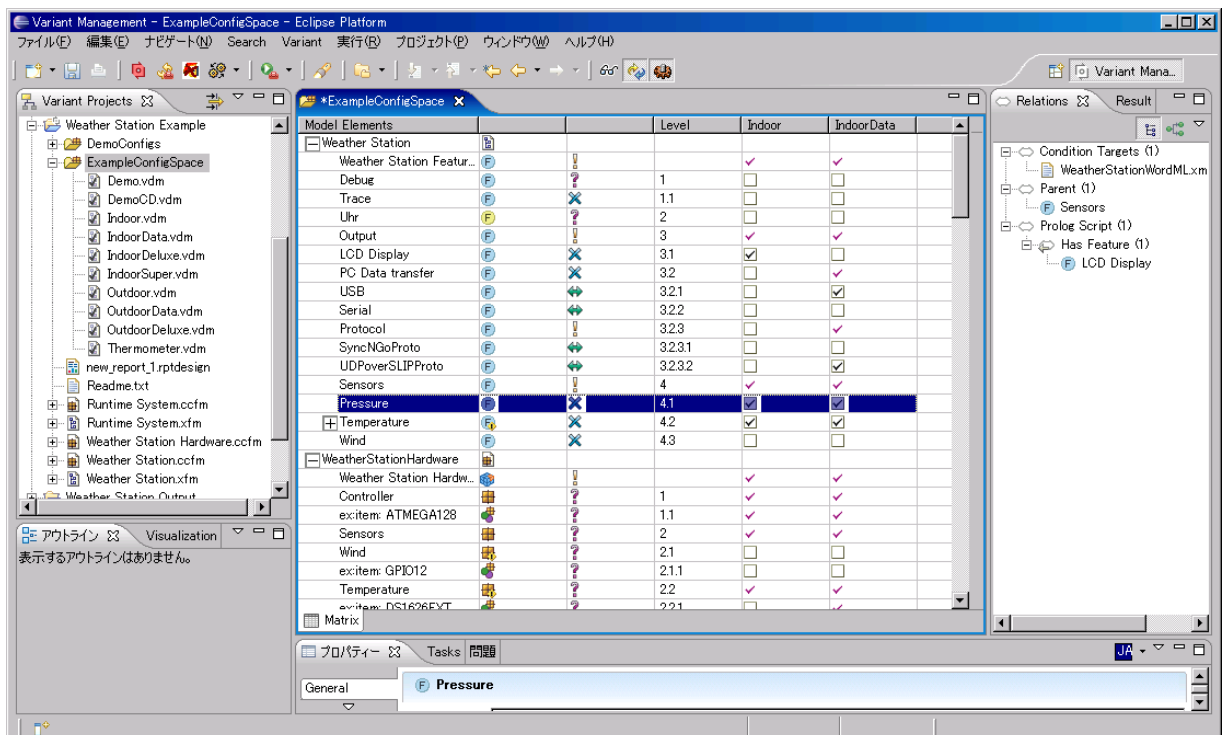
Matrix View 画面上で右クリックし、“Table Layout -> Change” を選択します。



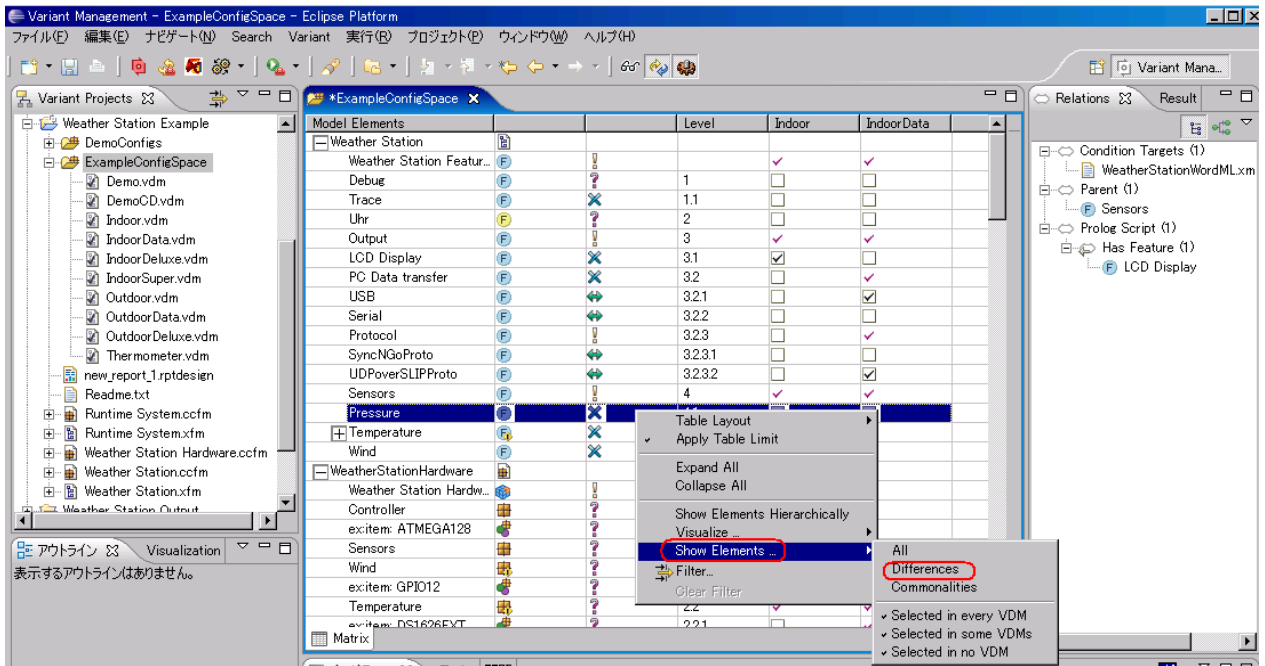
“Column Properties” ダイアログが表示されるので、VDM “Indoor” と “IndoorData” を残し、それ以外のVDMを左側に移動します。（“Indoor” と “IndoorData” を比較する）



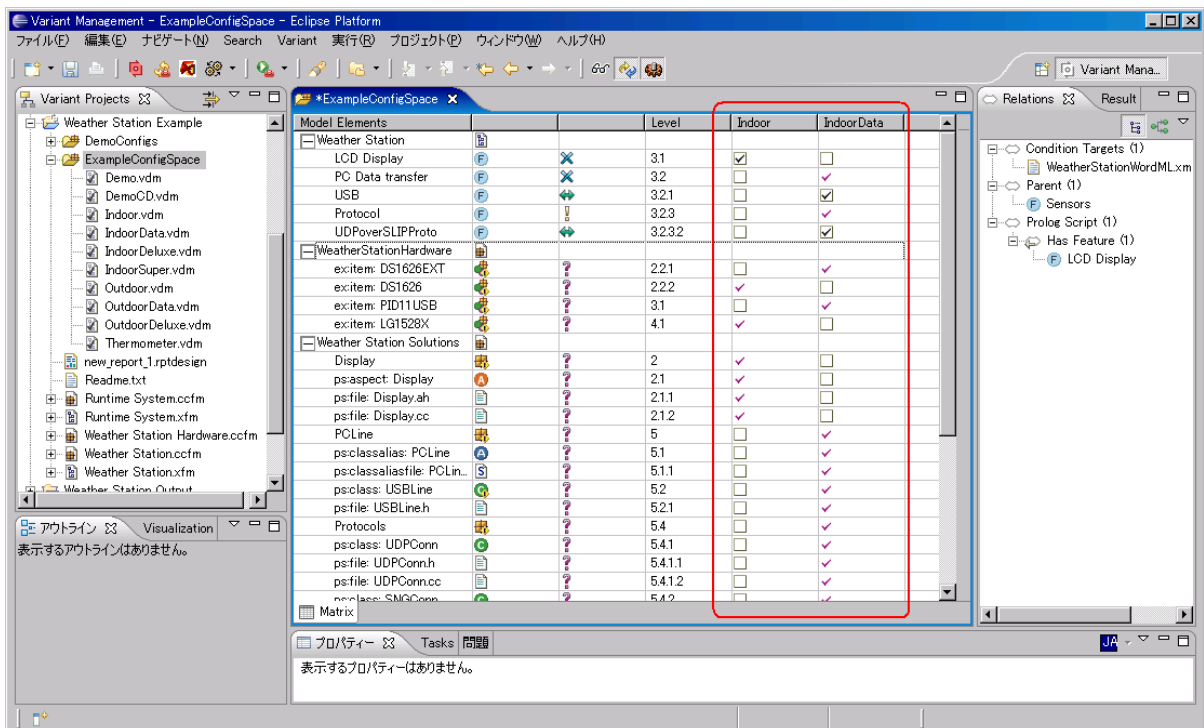
OK ボタンを押してダイアログを閉じると、Matrix View は以下ようになります。



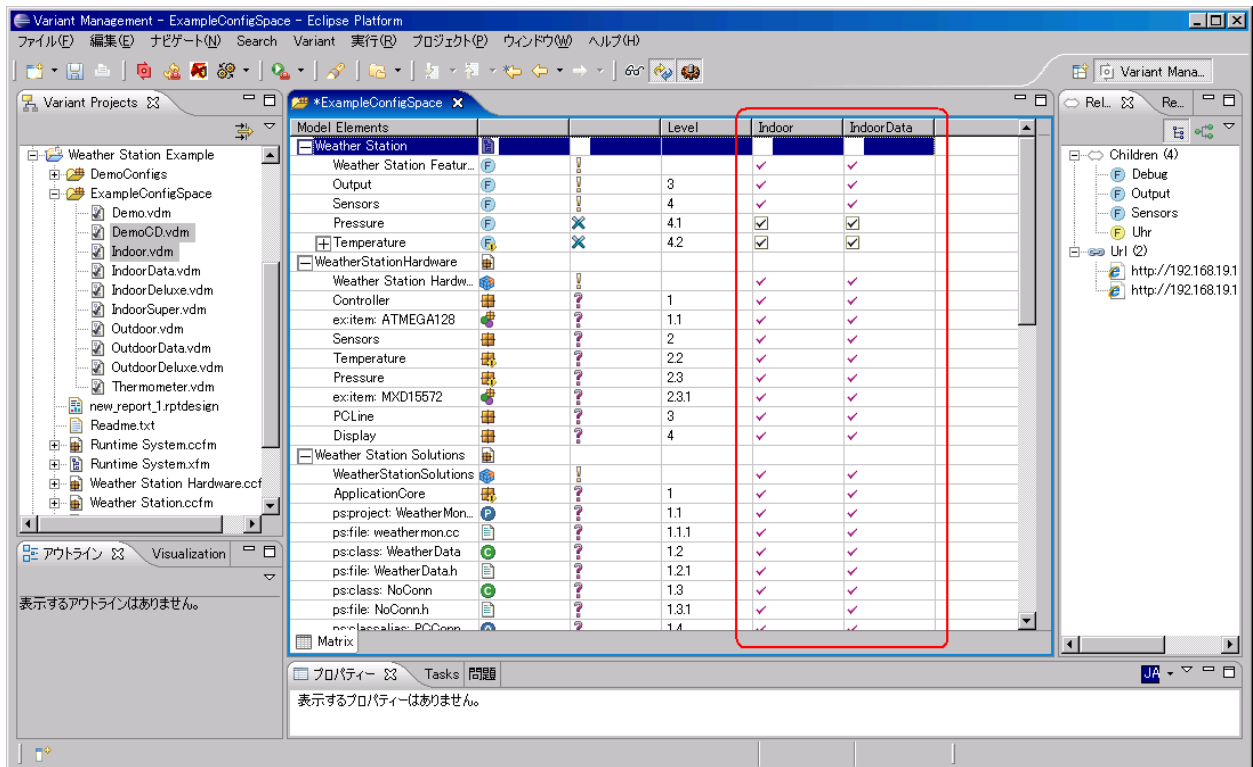
Matrix View 画面上で右クリックし、“Show Elements -> Differences” を選択します。



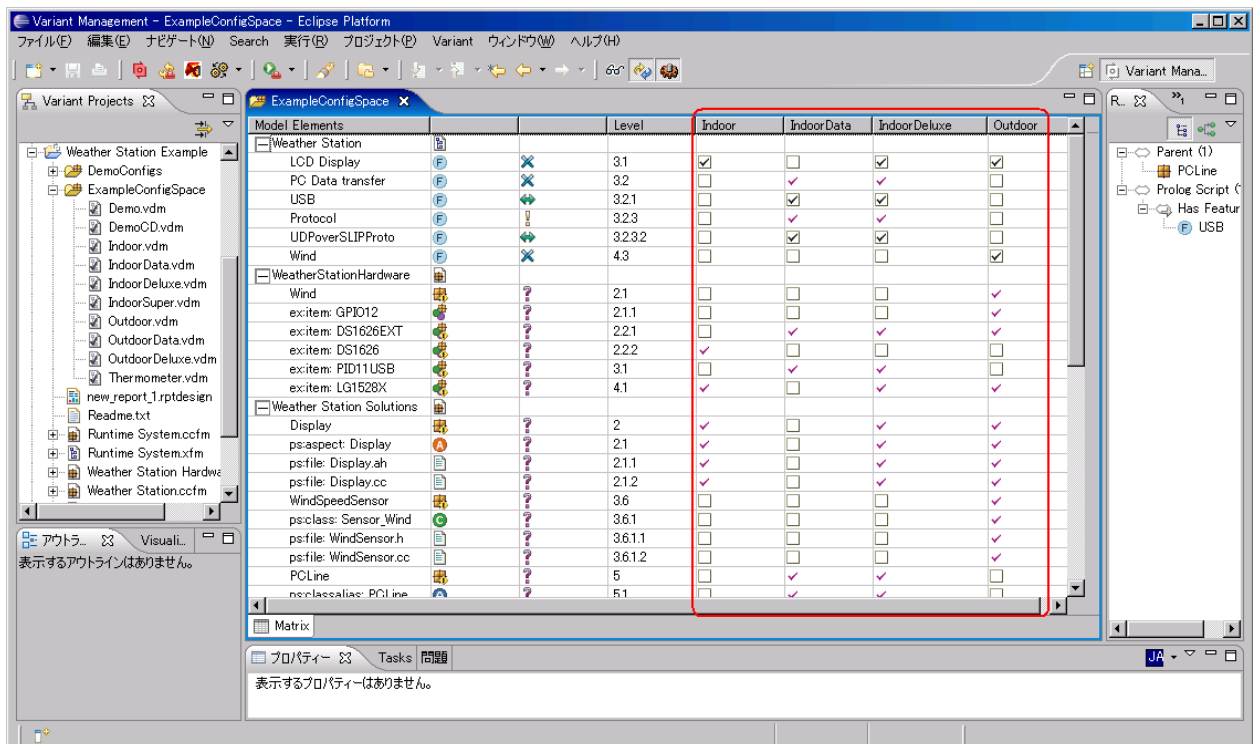
そうしますと、2つのVDM (“Indoor” と “IndoorData”)におけるフィーチャの差異が表示できます。



また、Matrix View 画面上で右クリックし、“Show Elements -> ALL” で元に戻し、同じく “Show Elements -> Commonalities” を選択すると、2つのVDM (“Indoor” と “IndoorData”)におけるフィーチャの共通部分が表示できます。



この Matrix View を使用して比較する方法では、バリエント（VDM）の数に制限はありません。



以上